

<南エリア編>

10月9日（日）、まち歩きには雨あがりの肌寒い午後、都市計画図と地図を片手に、多摩川住宅中央～せせらぎの散歩道～染地（府中崖線下）～郷土博物館～へび山 まで歩きました。今回は、都市計画図をみながら沖崎さんの建築家としての見方も参考に、建物の高さや道路幅、住宅の高さと田園風景、家並み、庭の植物などなど「景観」について考えながらこれまでとは違う視点でまちを再点検することができました。

みんなでゆっくりと歩きながらまちを歩くとまた気づいたことがあります。たとえば「こんなところに神社はあった？」「せせらぎの散歩道の水の流れはどうなったの？」「ごみ箱が植木鉢に変わった？」「ごみも多い」「マンションが増えたね」「たんぼが減ってしまった」「でもまだたんぼが残ってる」「子どもはたんぼに入ってるの？」「この小川には以前歩いたときには水が流れてたよね」「たんぼに水をひく栓だ！」「布田遺跡公園ができたんだ」「畑が少なくなったね」など7年前との比較をし、あらためて残したい風景、大切にしたい風景に気づいた1日でした。

景観部会が活動をはじめたのは、都市計画マスタープランの策定と同時期からです。あれから？年がたち、まちの風景も大きく変化してきました。調布市駅前では、地下化にむけての工事や再開発が始まっています。準工業地域でのマンション建設ラッシュから2005年3月「調布市ほっとするふるさとをはぐくむ街づくり条例」が制定されました。2004年6月の国の景観法の制定、2006年3月策定の環境基本計画の中でも緑の「景観」が位置づけられています。まち会でもまちづくりと景観について10年前とのまちの景観の比較をしながら、意見をまとめる作業と活動に多くの市民とともにつなげていければいいですね。

（安部宝根）



多摩川住宅北側のせせらぎ散歩道



進むマンション開発（染地2丁目）



均一化された建て売り住宅



比較的新しい建て売り住宅はやや個性を持たせている



染地一丁目近辺に残る水田



宅地化する畑（染地一丁目）